

一 OB の独り言

昭和44年電気科卒 吉田義輝



白球を追い続けた3年間から、早や50年近く経とうとして

している。毎年夏になると思い出す。3年生最後の夏の試合、まさか

一試合で終わろうとは思ひもしなかったが・・・。その試合は投手戦（貧打戦？）が続き、9回表に先制のホ

ームベースを踏んだ時は正直勝ったと思った。そして翌日の新聞見出しも頭をよぎった（長工接戦を制す？）そんな横着者に神様は背を向けた。9回裏2点を取られてサヨナラ負け。頭の中真っ白。「終わったなー」外野からゲーム終了の整列までがやけに遠い。空もやけに青かった。野球も知らない亡き母が初応援で微笑んでいた。対戦相手の西海学園、今になっても相手バッテリーの名前が頭にあるのはなぜだろうか？

この悔しい敗戦をバネにした後輩達6人は翌年開催される長崎国体へと進む。私は最初に就職した県外の地で後輩達の快進撃に胸躍らせたものです。

さて話変わって今夏は息子の案内で憧れの甲子園に行ってきました。親父が元気なうちにと考えたのだろうが、私としては母校が出場するまで元気であるつもりだが・・・甲子園は確かにひと味違っていた。まさに高校球児が目指すべきところ。あのレベルの高さは寝るのも勉強も惜しんで練習に打ち込んで

いるのだろうか？

現役球児に思う

勉学との両立に精進しつつ「その一投、その一打、その一歩」に集中し頑張っ

て欲しい。

3年間の努力は社会人生活で必ず活かされます。

“長工健児の健闘を祈る”

※吉田さんの44年卒組は国体の強化校に指定されたため2年生主体のチーム編成が取られその犠牲になったとも言われています。(笑) ちなみに一つ下の年代は九州大会に出場し準決勝まで進んで小倉工業に敗退、夏は長崎県代表として西九州大会まで進んでいる。三菱重工長崎で勤務しながら長崎市野球連盟登録の飽の浦カトリックチームで長期に亘って監督兼選手として活躍した。(同期の森山義明_三菱重工長崎、佐藤 始_JR九州も同チームに所属)

